　**ニュースレター　２０２3年　新春号**

**１　ご挨拶**

　２０２３年が始まって３週間が経過しました。皆様如何お過ごしでしょうか？　私は会合後、３次会迄行ったのが原因と思われますが、コロナに感染し自宅待機期間は終了したものの、その後家内に感染して療養中です。

申し訳なく思いますと共に、反省しきりです。今の世界経済並びにマーケットと同じように水面下からのスタートの年となりました。重症化・致死率は低下しているものの感染力は強いようです。ご注意下さいませ！

**２　新NISAは団塊ジュニア世代を救う為の１つの策！**

　別紙①をご覧下さい。今迄のNISA（非課税制度）は期間・非課税枠・２つの内いずれか等　非常に使い勝手の悪いものでしたが、**来年１月以降**　大幅に改善されました。

特徴は以下の３つ

1. **非課税期間が恒久化（無期限・一生涯）された事。**
2. **投資枠にしても、年間で３６０万円**
3. **非課税での投資総額が、１８００万円迄**

これで、一般的な標準世帯なら夫婦２人で　３６００万円ですからほぼ　カバーするのではないでしょうか？

又　富裕層の方には今魅力なかったものが、大きな魅力に変わります。

注意すべきは、民間の銀行や郵貯が新NISA獲得の為に、ポイントや少ない金利上乗せをちらつかせてキャンペーンを実施している事です。くれぐれも目先の利益に走らないで下さい。永い期間だと運用率１％で1000万単位で違ってきます。

　今回の新NISAは、団塊ジュニア救済策も１つの要素だそうです。

団塊ジュニア層は、就職氷河期で30％位が就職難民で非正規雇用。正社員にしても賃金は昇給しない。子供の学費負担や親の介護負担等々、老後の貯蓄不足が社会的課題となっております。そこで50歳からでも頑張って毎月10万円15年間貯めたら1800万円です。（別紙②参照）

別紙③～⑤は、一定期間積立投資をして65歳から20年間取り崩して生活費の足しにした場合85歳でいくら残っているかを世界株式ファンドの過去の実績を元にシミュレーションしたものです。

③で説明しますと、35歳（1971年）から65歳まで30年間　毎月５万円積立投資をしますと、元本1800万円が、5500万円になっています。これを毎年年末残高の５％を取り崩しながら残高は運用を継続します。

取崩額は20年間で3500万円（毎年平均175万）。単純計算だと差引2000万ですが、その間も運用していますので4100万円の残高です。これだと100歳迄長生きしても大丈夫ではないでしょうか？

④は正に団塊ジュニア向けの表です

⑤は分割投資と言って、現在纏まったお金がある方が、一括投資をするのではなく、毎月３０万円の積立投資のパターンです。これには２つのメリットがあります。１つは、年間360万円の非課税枠を活用できること。２つめは、マーケットは上下しながら上がっていきますから、下がった時に多くの数量が買えるドルコスト平均法が活用できる事です。

⑥は過去20年間の各ジャンル毎（日本株・日本債券・先進国株式・先進国債券・新興国株式）の各年毎の、夫々の運用実績です。又これを各20％づつ均等配分で運用した結果が表示されています。均等配分で100万円が２０年後

約380万円です。　しかしこれは運用率の非常に低い日本債券も含んだ実績です。　これを世界株式ファンドに投資していたら、663万円になっています：別紙⑦参照

資産を大きく成長させるには、**長期的な視点　いわゆる「鳥の眼」**が必要です。別紙⑧参照

昨年のニュースレター10月号に、「景気後退と景気サイクル」の記事を掲載しました。今回の景気後退は1-2年　長くて3年と書きましたが、希望的観測を書きますと、今年の夏場以降　上昇に転じるのではないでしょうか？

15年前のリーマンショックのようにはならないのではと専門家のお話です。

又12月号で書いたように、今後１０年以上インフレ時代の到来です。預貯金では金銭的価値は目減りする一方です。

世界株式市場の恩恵を受けて、豊かな人生に繋げましょう！

**それをサポートして「世界の株式市場が生成する年率7.5％のリターン（収益率）をお客様にお届けする」が当社のポリシーです。**

　２０２３年1月２４日　代表：岩本　悟